



大切なことを教えてくれるのは現場の人たちの声なのです

大原薬品工業株式会社

代表取締役社長 薬学博士 大原 誠司氏

医薬品情報BOX

メーカー番号

0009#

(下記取り出し方を参照し、音声ガイドに従って操作してください。)

FAXBOX一覧表

0001#

営業所一覧表

0002#

ジェネリック医薬品の認知度を上げるための活動

新薬の半額ほどで提供されるジェネリック医薬品は、患者さんにとってのメリットはもちろん、医療費の負担増により患者数の減っている病院にとっても期待される存在になりつつあります。これは、現場の声を何よりも大切にしている私たちが、実際に医師たちから聞いてきたものです。

ところが、ジェネリック医薬品、ジェネリック医薬品会社の認知度は非常に低いのが現状です。そこで「ジェネリック医薬品を認知してもらおう」という考えから、年に5回ほど、朝日新聞に全面広告を掲載。地道ながら啓蒙活動を行い、地盤固めを進めています。

情報開示は、医療現場に携わる医師や薬剤師さんにとっても重要な問題です。ただし、弊社は大手製薬会社のように大人数のMRで対応することはできません。そこで、求められる情報を的確に提供することに注力。患者さんや薬剤師さんの質問・相談に応じる「医薬情報室」のほか、「特許情報室」を開設するなど、情報開示しやすい環境を整備してきました。

さらに、ITを積極的に導入するなど、専門性を高め、効率的に医薬品に関す

る情報を提供するための様々な工夫を行っています。2001年に、伊藤忠テクノケミカル、CBC、稲畑産業の3社と資本提携を行ったのも、グローバル戦略の一環であると同時に、多くの方々に安心してもらえる“公益性”を高めるためでもあったのです。

徹底した品質保証と情報開示で高い信頼性を得ることが第一

もちろん、認知度を高める以上に重要なのは、品質保証です。薬事法の中でも、GMP(医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準)やGPMSP(医薬品の市販後調査の基準)といった基準が年々重要性を増してきています。これらの基準に対応した最新設備を導入したり、体系的なデータ管理を行うことにより、徹底した品質管理を実現しています。

また、アメリカのFDA(米国食品医薬品局)のような海外の基準にも、対応できる体制作りを進めています。ジェネリック医薬品の法整備が進んでいる海外の基準は、近い将来日本の薬事法でも追従するはずですよ。

その上で、弊社が製造しているジェネリック医薬品は、胃薬や解熱鎮痛剤といった効き目が分かりやすいものから、高血圧や高脂血症などローコスト

のメリットが大きい慢性疾患に対応したもので展開。さらに、全ての医薬品をジェネリック医薬品として発売する際は、錠剤・カプセルの小型化や苦みマスキングを行い、さらに飲みやすくなるよう製剤工夫を行っています。こういった製剤工夫も、常に現場の声を聞き入れ、その声を医薬品に還元したいという思いから実施しています。

私たちは「市場性は高くなくても、患者さんにとって有用な薬を作りたい」という姿勢で製薬を行っています。薬剤師さんたちも同じ気持ちでしょうが、現実には代替調剤が認められていないことや薬品の保管スペースの問題など、ジェネリック医薬品を取り入れにくい状況にあることも理解しています。今後は、そういった状況を少しでも改善し、法整備の手助けになるような活動にも注力していきたいと思えます。

会社情報

- 設立：昭和39年11月5日
 - 問い合わせ：〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6日本橋ビル 5階 学術部
 - TEL：お客様フリーダイヤル0120-419363(9:00~18:00 月~金・祝祭日を除く)
 - FAX：03-5614-6588
 - URL：http://www.ohara-ch.co.jp
- ジェネリック製薬会社として、常に最高品質の製品を追求し、業界の発展に貢献している。2001年には、伊藤忠テクノケミカル(株)、稲畑産業(株)、CBC(株)の3社と資本提携。さらに安定した経営基盤を構築した。

医薬品情報の取り出し方

TEL.0570-002189 (市外局番なし)

メニュー選択

2#

メーカー番号

0009#

BOX番号

XXXX#

終了

#

取り出し先FAX番号入力

XXXXXXXXXXXX#

FAX番号確認

#